



# OUJ神奈川学習センター あきだより

通巻第 102 号

発行：放送大学神奈川学習センター

<http://www.sc.ouj.ac.jp/center/kanagawa/>

2025 年 11 月発行

〒232-8510 横浜市南区大岡 2-3 1-1

TEL: 045-710-1910 FAX: 045-710-1914



京急線・金沢シーサイドライン金沢八景付近の遊歩道「平潟湾プロムナード」から平潟湾を望む

## 目 次

|  |    |
|--|----|
| 2025 年度第 2 学期の入学者を迎えて .....                              | 2  |
| センターだより 創刊 100 号 記念特集                                    |    |
| 「神奈川学習センターだより」の成立と課題 – 100 号記念連載第 3 回 <最終回> – .....      | 3  |
| 令和 7 年度 第 1 学期 学位記授与式 .....                              | 4  |
| 令和 7 年度 第 2 学期 入学者の集い、所長による勉強の仕方講習会 .....                | 6  |
| 公開講演会 <放送大学神奈川学習センター・横浜市大岡地区センター 共催>、K-サポートからのお知らせ ..... | 7  |
| 第 36 回 フェスタ・ヨコハマ .....                                   | 8  |
| 令和 7 年度 神奈川学習センター開講ゼミ一覧 .....                            | 9  |
| 学生サークルからのお知らせ、神奈川同窓会だより、                                 |    |
| 神奈川学習センター 40 年の歴史と一緒にまとめませんか？ .....                      | 10 |
| 神奈川学習センターからのお知らせ .....                                   | 12 |

## 2025 年度第 2 学期の入学者を迎えて

放送大学神奈川学習センター所長

大谷 英雄



放送大学に入学された皆さん、誠におめでとうございます。

皆さんは、放送大学という新たな学びのステージに立たれました。学ぼうという意欲に満ち溢れていることでしょう。放送大学の大きな特徴は、時間や場所に縛られることなく、自分のペースで学習できることです。これは、従来の大学とは異なる、自由で多様な学びの形と言えるでしょう。別の見方では、自己管理の能力が求められるということでもあります。放送大学には決まったカリキュラムはありません。自分で卒業に向けた毎学期の時間割を決め、卒業という目標に向かって一つ一つ単位を取っていくかなければいけません。これは決して簡単なことではありませんが、自分の力で主体的に行った学びは、皆さんの人生を豊かにしてくれるはずです。挫折せず学び続けていただきたいと願っています。

20世紀最高の物理学者と評されるアルベルト・アインシュタインは「学べば学ぶほど、自分がどれだけ無知であるか思い知らされる。自分の無知に気づけば気づくほど、より一層学びたくなる。」という言葉を残しています。アインシュタインですら自分の無知を自覚していたのです。知らないことは恥ずかしいことではなく、まだ学ぶべきことが残っているという幸せを感じてください。我々の知らないことはいろいろなところに転がっています。人生において学ぶことが尽きることはありません。

放送大学では、様々な分野の専門家が教鞭をとっており、最先端の知識や情報を学ぶことができます。

学習センターでは面接授業やゼミが実施されるほか、学生のサークル活動なども行われ、教員とあるいは学生同士で交流する機会が用意されています。ぜひ、ゼミやサークル活動に参加して、学友との交流を深めていただければと思います。

一方で、放送大学での学びにはインターネット技術が必要になってきました。インターネット上のシステム WAKABA で放送授業のインターネット配信を視聴することもできますし、単位認定もシステム WAKABA の Web 単位認定試験によって行われています。面接授業も対面授業ばかりでなく、オンライン授業やライブ Web 授業といった、インターネットを利用した授業も増えています。大学生活の基盤技術として、情報通信技術を使いこなせるように努力していただきたいと思います。

インターネットの情報には注意も必要です。ネット詐欺やフェイクニュースはご承知だと思いますが、AI 技術の進歩により、かつては外国発の偽情報では日本語が不自然で見分けやすかったのですが、AI の発達により日本語が自然な感じになったように思います。インターネットを通して知識を得ることは簡単になりましたが、それが真実かどうか見抜く目が必要になっています。放送大学での学びによって偏見を排除し、客観的に真理にたどり着く力を身につけてほしいと願っています。

放送大学の学歌には「まなぶのはたのしみ」という一節があります。皆さんにもこれから放送大学での学びを楽しんでいただきたいと思います。



## センターだより 創刊 100 号 記念特集

### 「神奈川学習センターだより」の成立と課題

— 100 号記念連載第 3 回 <最終回> —

放送大学名誉教授 坂井 素思



なぜ 1998 年になって「神奈川学習センターだより」発刊が可能になったのでしょうか。いくつかの成立条件と、そして今後の課題を考えてみたいと思います。

もちろん、センターだよりの発刊は簡単ではありませんでした。発刊当時、最も難航したのは、ざっくりいうとお金の問題でした。当初はセンター側でも、センターだよりを出す必要性をまったく感じていなかったというのが実情です。これは神奈川だけでなく、全国的な傾向でした。職員は仕事だけでも手一杯でしたし、学生のボランティア (K-サポート) もまだ普及する前のことだったのです。さらに、わたしども教員も授業科目の制作と面接授業出講で全国を回っていて、汲々としていた現実もありました。

予算が出るようになったのは、わたしが神奈川学習センターから異動したずっと後で、創刊号発行から 7 年間、用紙や印刷代さえまったく予算に上がらず、コピー機を使った印刷も自分で行わなければならぬ状態でした。また、発刊のころには、コピー機は事務室の中だけに設置されており、自由に使うことが憚られました。センターだよりのコピー枚数が多かったのです。何しろ当時のコピー機は匂いがキツくて、トナーの粉が充満するのではないかと危惧していたのです。印刷室が曲がりなりにも別の部屋につくられ、事務室のコピー機と分けられ外へ出されて、ようやくコピー機を自由に使うことができるようになったことが、唯一の予算便宜だったといえます。とはいえ、印刷室が自分の印刷工房のように思え、一人で印刷作業を延々と行っていると、表には現れないのですが、あとで思い返すと、他者にはわからない自己満足があり、思わずほくそ笑んでしまうのは、役得以上の饒倖でありました。

じつは意外なことですが、1990 年代の発刊スタートのきっかけになったのが、インターネットの普及という事態でした。当初、予算がないのであれば、印刷費のかからないネット配布あるいはネット掲示

板があるのではと考えていました。じっさいにこのネット掲示板も試行されました。けれども、実際に使ってみるとネット掲示板は一部の学生利用に限られることがわかりました。そして、それ以上に問題だったのは、参加していた学生たち自身が時期尚早と指摘していたように、掲示板の話題が短く面白いものではなかったというのが掲示板を停止した一番の理由でした。センターだよりという紙媒体には、単なる事務連絡でもなくまた同好会のお知らせ機能だけではなく、中範囲の学生とのコミュニケーションを保持するという独自の存在理由があることが次第に認識されるようになったのです。

さらに、印刷室には、以上のようなコピー機の自由使用だけでなく、さらに印刷物の折込機が導入されることになって、ずっと省力化されることになったといえます。それで結局、ネット配布も掲示板ではなく、紙版と同じものを掲示しようということになり、結局のところ紙版配布と両方行おうということになったのです。

詰まるところ、センターだよりのコミュニケーションの目的は情報伝達の「効率より交流」ということになりました。一般の大学でも学生一人一人に連絡を取ることはないのですが、それと異なり、放送大学は通信制なので、なんらかの方法で絶えず全員の学生にお知らせを行うことができることをわたしは期待していました。センターだよりもどうせ発行するなら、所属学生全員に配るような仕組みとして考えたらと当初は考えていました。まだメールも普及しておらず、学生全員への連絡など考えられない時代がありました。しかし、この壁は思っていた以上に大きかったと思いますし、今から考えると、センターだよりという媒体は、全員にたいしてはゆるく関係するメディアなのではないかと思ってもいます。常に全員に通ずる媒体ではなく、時に補助的にあるいは違った視点を提供する媒体だと思うのです。予算の話をすると限りないのでですが、やはり編集の

人材集めも「予算」問題の内にあるとわたしは思います。ここでは読み手と書き手のことばかり書いてきていましたが、やはりこれらの両者を取り持つ中間の媒介者たる編集者というものについて、もっとわたしたちは思い致すべきであり、機会のあるごとに感謝とまではいかなくても配慮すべきではないかと思っています。つまり、ここで注意しなければならないのは、センターだよりに関係する学生や職員（特に編集者）の手間や負担を極端に増してしまう恐れのあることです。一旦ボランティアとして加わってしまうと、仕事以上にたいへんなことがたびたび起こってきます。手いっぱいの仕事や忙しい学業と併行してセンターだよりを出す工夫が要ります。あまり良い解決策はないのですが、編集者はセンターだよりに愛着を持つつも、一定の距離を保つことも忘れるべきではないと思います。あとは、参加者の自由に自然にまかせることがよいのではと考えています。余裕を持った距離を保ち、編集者同士で

協力し合えれば、センターだよりの持つ学生間の関係について、より柔軟に対応して、強い関係もみることができるし、同時にゆるい関係もみることができます、センターだよりの中範囲のメディアの性格を保つことができるのではないかと思っています。

もしあなたが編集者をお願いと求められたら、どのような編集者になりたいですか。わたしなら、もう一度と言われたら、ぜひインタビュー記事をまとめてみたいと思っています。なぜならば、センターだよりが全員に届くようなメッセージ性の高いものだとは思っていますが、直接それが届くことはないと思っています。でも、インタビュー相手ならば多少熱っぽく、なおかつゆるく全員に伝わるような関係を保つ記事になると思うからです。自分の場所から離れられないで勉強している学生たちに、異なる魂もあることを示し、共感とまではいかないにしても、ほんの少しの揺さぶりをかけることができるかもしれませんと思っています。 （完）

## 令和 7 年度 第 1 学期 学位記授与式

9月28日(日)午後に学習センター第8講義室にて、令和7年度第1学期の学位記授与式が挙行されました。

神奈川学習センターの卒業生140名のうち、式に出席した46名の卒業生一人ひとりへ大谷所長から学位記が授与され、一つの学びの達成と新たな学びのはじまりを心に刻んでいました。



式は学長のビデオメッセージから始まり、大谷所長の式辞では、「急速に変化している社会では、一度学んだ知識やスキルはいつまでも使えるものではない。南アフリカ初の黒人大統領マンデラ氏の言葉『学ぶことに終わりはない人生は学びの連続である』」とスピーチがありました。

来賓の神奈川同窓会 金田会長、嘉藤亮客員教授、小林正佳客員教授からの祝辞、横浜国立大学 梅原学長からの祝電の披露がありました。さらに、所長表彰者2名と名誉学生6名への表彰が行われた後、学歌を斉唱して閉会しました。



金田同窓会会長



嘉藤客員教授



小林客員教授

同窓会から卒業生へ桜茶も振る舞われ、卒業生の門出を祝う晴れやかな日となりました。

また、所長表彰が授与された副島さんと名誉学生の植地さんにご寄稿いただきましたので、ご紹介します。

### 学位記授与式によせて

副島 知子

この度は学位と所長表彰までいたいただき、大変感激をしています。

長年勤めた会社の定年を迎える事になり、これから的人生にも目標を持って生活をしたいと思い、放送大学に申し込みました。



勉強はとても楽しくネット配信や教本を読みそれでも頭に入らない時はテストに出ても直ぐにわかる様に教本をノートに書き写しサインペンで印を付け工夫をしました。勉強時間は家事やパートの仕事の空いた時間を使い、出かける時も教本を持参し目を通して有効に活用しました。履修単位を取るためにには心理以外の勉強も必修で、始めて知る事も大変多く知識が増え、勉強して本当に良かったと思いました。またネット配信やオンライン授業では国内外の映像でそこに行った様な気分になり、講義ではカラーでの分かりやすい表等で説明をして下さるので楽しかったです。

そして面接授業では学習センターへ地図を片手に初めて訪問し、恐る恐る教室に入りました。高齢なので不安でしたが、皆さん優しく年齢差も気にせずに声もかけていただきました。また大学の単位をどの様にとって良いのか、「WAKABA」のシステムも良く分からず、時には学習センターに電話をして詳しく説明をしていただき安心しました。最初の入学の心配や不安はなく卒業を迎える、今は勉強した知識が心のゆとりと自信につながり、時には授業を思い出し有意義な時を過ごす事が出来て良かったです。お世話になった先生方はじめ職員の方々にも感謝で一杯です。ありがとうございました。

## 全6コースを踏破して

植地 勲作

放送大学の大学院卒業後、学生談話室の片隅で学習相談員をやっていました。談話室で楽しく談笑している学生諸氏の姿を見て、もう一度学生生活を送ってみようと思い立ちました。

出身大学では理系の学問を修め、勤めた会社でも工場、本社研究開発部門と、文系とは縁遠い生活を



送ってきたので教養学部では重点的に文系の学問を学ぼうと考えました。

最初に選択したのは「人間と文化」コースです。2009年4月に入学し、2014年9月に卒業しました。最大の成果は卒業研究に取り組んだことです。テーマは「藤原銀次郎論—その思想形成と王子製紙の経営一」で、渋沢栄一の肝いりで創始した「抄紙会社（後の王子製紙）」が経営不振に陥ったとき、経営再建を担った藤原銀次郎という人物の足跡を辿り、論文に仕上げました。論文審査の際、杉森哲也先生から自費出版を勧められ、時間をかけて論文を読み物の形に改編し、2019年に先生からいただいた

『評伝 藤原銀次郎』というタイトルで自費出版しました。現在では、22世紀アート社から電子書籍として出版され、Amazonでも購読できるようになっています。

この後は文系・理系にこだわらず勉学を進め、「社会と産業」、「心理と教育」、「自然と環境」、「情報」、そして2025年9月には「生活と福祉」コースを修了し、晴れて全コース踏破を達成しました。

私の書斎（？）には教養学部の教科書が約60冊、それに面接授業で使ったテキストが「ところ狭し」と並んでいます。今や、授業内容の詳細は忘れても、いざとなれば何時でも紐解けるという安心感が私の生活の支えとなっています。

教養学部の各学科の内容は充実しており、とても受講科目に甲乙はつけられません。この中から一つ紹介します。新聞やテレビによく「国際法」という言葉が出てきます。放送授業で「国際法という法律はない」ということを初めて知りました。まさしく「目から鱗」です。面接授業では、「イタリア歌曲を楽しむ」を学び、その延長で合唱団に加わり東京芸大のホールでベートーベンの「第九」の演奏会に参加できたことも心の財産になっています。

今後の進路をどうするか、いろいろ思案した挙句、再度大学院・選科に入学し、好きな科目を1科目ずつ勉強することに決めました。

以上、とても意を尽くせませんが、後輩諸氏のご参考になれば幸いです。

## 令和7年度 第2学期 入学者の集い

10月5日(日) 神奈川学習センターにて、令和7年度第2学期の入学者の集いが開催されました。神奈川学習センターの入学者 1,028名のうち約90名が第8講義室に集いました。

式は、岩永学長のビデオメッセージから始まり、大谷所長の式辞は、コロナ明け後はじめてマスクの着用なしで行われ、より所長の人柄が伝わるお話になったと思います。「放送大学を卒業するには、自分が何を学ぶか強く願い続けられるかということにかかっている。」とも話されていました。

神奈川同窓会金田会長の祝辞、大谷所長から客員教授紹介が行われ、式に参加された高木まさき客員教授は「地道な作業の先に創造的なものが生まれる。頭で考えているばかりでは無く、作業をしてみ



金田同窓会会長



高木客員教授



山本客員教授



る、現場に行ってみるとこれが大事である」と話されました。また、山本勲客員教授からは、本誌前号「なつだより」掲載の先生のご寄稿をもとにお話がありました。

横浜国立大学梅原学長からの祝電披露、2017年3月に実施された「第九を楽しむ」コンサートで収録されたビデオを流しながらの学歌齐唱が行われ閉式となりました。

休憩をはさんで、学習センター教務係によるオリエンテーションが行われ、「K-サポート」の紹介、「若者の集い」の紹介、サークル紹介と続きました。

## 所長による勉強の仕方講習会



10月25日(土)午後、学習センター第6講義室にて、「所長による勉強の仕方講習会」が開催されました。

大谷英雄所長から、新入生に向けた放送大学での学びについて「学生生活の葉」の知っておくべき基本的な重要事項の説明と、システムWAKABA の紹介がありました。

次に、大学生の学び、とくに放送大学での学びには、2つの柱があるというお話をありました。柱の一つは、「必要な情報を自分で入手する力～必要な情報は待っていても届くことはないので、Web等を活用して情報を得る力が必要である」、もう一つは、「大学生としてのリテラシー～文章や図表であらわされたものを理解して、自分からも、書き表し表現できる力を持つことが欠かせない」という内容でした。

続いて、「学生生活の葉」をもとに、放送大学の学びの仕組みや授業の形態、成績評価等についての説明がありました。

また、放送大学の強みは、時間や場所に制限されずいつでも学べること、テキストや放送授業等の優れた教材を繰り返し読んだり見たりできる点であると述べられ、一方、難点としては、どうしても孤独な学修になってしまうことがあるという放送大学での学びの難しさについて話されました。

そして後半は、システムWAKABAや自己学習サイトの説明などが行われました。

講習会の後引き続き、K-サポート学習相談チームによる学習相談会が開催され、参加者の過半の学生が熱心に相談をしていました。



## 公開講演会 <放送大学神奈川学習センター・横浜市大岡地区センター 共催>

8月9日(土) 横浜市大岡地区センター大会議室にて、横浜市大岡地区センターと放送大学神奈川学習センターの共催で、一柳 廣孝 横浜国立大学名誉教授／東京女子大学特任教授の講演「怪異の文化学－幽霊イメージの変容を中心に－」が開催されました。



毎年秋と春先に行ってきました大岡地区センターと神奈川学習センターの連携講座。今回は、幽霊や妖怪がテーマになるので、猛暑の中、参加されるみなさんに涼んでいただけることを期待して、8月上旬の開催となりました。

身近にある不思議な話を出だしに、時代を遡るところからお話を始めました。幽霊・妖怪が形を持たないで伝えられていた古代の話で『幽霊ではなかった幽霊－古代・中世における実像』(二松学舎大学の小山聰子教授の研究)を中心に解説されました。古代から中世、そして、妖怪が実体化した江戸時代の話へ続きました。江戸時代、地方の怖いものは自然～妖怪～であり、都会の怖いものは人間～幽霊～という形で、幽霊は明解な形を持つようになったことを、江戸時代の有名な幽霊の絵をスライドで映しながら話されました。

明治時代になると、文明開化により、迷信にとらわれた心を開き新しい世界へ順応してゆくような啓蒙運動があり、幽霊妖怪がやり玉に挙げられました。都市住民の間では、幽霊や妖怪は虚構の存在となっていました。一方、海外からは、靈を科学的に分析する近代心靈主義、科学的心靈研究といったものも伝わってきました。

時は流れ、1990年代に新たな潮流が生まれました。それまでの怖い話には落ちがあり、因果がはっきりしていましたが、事実しか語らない怪談が流行るようになりました。さらに、2010年頃からは、怪談を語る人が増えてブームを作りました。

今市子「百鬼夜行抄」や、熊倉隆敏「もっけ」に見られるように、現代の怪談は、日常的なものであり、靈感は誇るべきものではないとの解釈が多くなってきました。仏壇とかお墓もなくなりつつある状況で、幽霊の話も落ち着き先が無く、因果応報の形での怪談が作りにくくなりました。

現代のホラー小説、実話怪談のブームでは、モキュメンタリーの作品も見られるように、現実と虚構の線の引き方が曖昧になることを楽しむという風潮があり、幽霊の物語も変化してゆくのではないかと話されました。



大学教授の講演を聴いているというより、聴衆が上品な話芸を楽しんでいるという雰囲気のご講演。みなさん、怪談を聞くように話に引き込まれ、言葉と言葉の間には、静寂が支配する会場になりました。

## K-サポートからのお知らせ

学生の皆さん、通信指導(締切 11月26日)に向けて学習に励んでいらっしゃることと存じます。  
K-サポートの年度末までの活動予定をお知らせいたします。詳細はポスターをご覧ください。

### ■ 学習相談チーム

2月22日(日)  
⇒ 科目登録学習相談会

### ■ パソコンサポートチーム

1月31日(土)  
2月15日(日)  
2月22日(日)  
⇒ パソコン初心者塾

(K-サポート事務局)

| パソコン 初心者塾  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|
| 【受講料】 無料   |  |  |  |  |  |
| 【受講内容】 Web制作   |  |  |  |  |  |
| ① パソコンの基礎(基本知識 windows11操作)<br>② AIの活用(Gemini 活用 Copilot 活用)<br>③ 欲望大賞在学生用機能(ネット配信授業の視聴など)<br>④ Office使用方法(Word Excel PowerPoint)                                  |  |  |  |  |  |
| 【開催日時】 2月22日(日) 技術交流会(所長もプレゼン)   |  |  |  |  |  |
| 【受講料】 無料<br>【主催】 K-サポート<br>【会場】 神奈川学習センター<br>【申込】 放送大学・神奈川学習センターの学生で<br>パソコン初心者の方 既に放送大学ホームページ等<br>が利用できない方 Word Excel PowerPoint の初心者 募<br>【申込料】 無料 中止申込・欠席連絡漏れなし |  |  |  |  |  |
| <b>【申込方法】</b><br>カークホーク番組便の「パソコン初心者塾申込用紙」に記入・返却<br>オリジナル(%)に必要(1枚の申込用紙で複数回の申込可能)<br>中止申込書の記入申込・連絡漏れなしでない限り申込料<br><b>【出席料】</b> 無料(セミナー実費含む)                         |  |  |  |  |  |

### 科目登録 学習相談会 のお知らせ

日時：2026年2月22日(日)  
 時間：13:00～17:00(受付 16:00まで)  
 場所：2F 第4講義室  
 内容：2026年度1学期の科目登録に関するご相談、放送大学の学習に関するご相談一般  
 申込：直接、2F 第4講義室の相談会場にお越しください(予約不要)  
 ご注意：システム Wakoku による登録サポートはしません  
 パソコン初心者塾(事前申込制)をご利用ください

**Kサポート** 学習相談チーム

## 第36回 フェスタ・ヨコハマ

8月30日(土)と31日(日)神奈川学習センターにて、神奈川サークル協議会(神奈川学習センター所属の11の公認サークルと神奈川同窓会で構成する協議会)主催、放送大学神奈川学習センターの後援で、第36回放送大学神奈川学習センター学園祭「フェスタ・ヨコハマ」が開催されました。



1日目(30日)午前中は、第4講義室で、フェスタ・ヨコハマに協賛して、神奈川同窓会と神奈川学習センターの共催によるホームカミングデーが開催されました。午後には、第8講義室で、川之家河童さん、ここあさんの出演による大岡寄席。それに続いて、第6・7講義室では、放送大学神奈川合唱団とダンスサークル、放友会音楽部の出演による「音楽とダンスのコラボレーション」が開催されました。

2日目(31日)午前中は、第8講義室で、坂井素思名誉教授による記念講演「社会の中の「自分とは何か」－Social Selfとは？－」が開催されました。



午後、第6・7講義室では、軽食と飲み物を用意して立食形式の「交流会」が開催され、交流会場内では、うえるかむKanagawa、中国語学習会、韓国語同好会、スペイン語研究会、神奈川放友会が模擬店を出店し、俳句川柳大会、JAZZライブ演奏、大福引大会が行われました。



また、2日間を通して、第3講義室では、学生の作品が展示されました。さらに、第2講義室では、神奈川同窓会がお茶席を設けて、記念講演講師の坂井名誉教授、濱田名誉教授、清水事務長、小滝千葉同窓会長他の方々を招いて、お茶席が開かれました。

今回のフェスタ・ヨコハマは、コロナ禍後、はじめてビール、やきそば等を提供して、交流会が行われました。参加スタッフの代替わりもあり、各サークル実行委員のみなさんのたいへんな努力の甲斐あって実施できました。やきそばは、猛暑の中、屋外での調理作業もありました。みなさまのご尽力に感謝いたします。



神奈川学習センターに長く在籍していた坂井名誉教授が、久しぶりに神奈川学習センターで講演をされることになり、当時神奈川に在籍していた先生方や職員の方～濱田名誉教授、隈部教授、原田教授、宮崎元事務長ほか～もフェスタ・ヨコハマおよび関連行事に参加されました。

これを機会に、さらに交流の輪が拡がってゆくことを願っています。

## 令和 7 年度 神奈川学習センター開講ゼミ一覧

神奈川学習センターのゼミは、所長、客員教員が主催する勉強会です。自由な雰囲気で、先生からの指導、学生相互の意見交換、親睦を深めることができます。

ゼミへの参加を希望される方は、神奈川学習センター ウェブサイトのトップページに掲載の「神奈川学習センター実施のゼミのご案内」のリンク先から、注意事項を確認のうえ申請を行ってください。

### ◆ 神奈川学習センター客員教員開講ゼミ

| 教員名   | ゼミ名        | 活動内容   | 開催予定日                         |
|-------|------------|--|-------------------------------|
| 安藤 孝敏 | 生活の中の老年学   | 老年学（ジェロントロジー）は、高齢者の生活にかかる問題などを解明し、より良い高齢社会をデザインするための学問です。このゼミでは、日常生活の中にある高齢社会の様々な問題について、ゼミ生と一緒に考えていきます。  | 毎月第 3 水曜日<br>学生との調整により変更もあります |
| 大谷 英雄 | リスクを考える    | 現代はリスク社会と言われ感染症のリスクや自然災害のリスクなどがマスコミでも取り上げられることが多いが、一方でリスクはあるかないかを議論するものではなくて大きいか小さいかが議論されるべきものであるのに、あるかないかが議論されていることが多いように感じられる。このゼミではリスクの捉え方や伝え方などについて議論していきたい。 | 毎月第 3 火曜日<br>学生との調整により変更もあります |
| 大矢 勝  | 洗浄科学ゼミ     | 洗浄を通して科学的な態度を楽しむ姿勢を身に付けることを目的として、毎回洗浄に関する別のテーマを設定し、それぞれの有効な洗浄方法とその仕組みについて考えていきます。<br>※開講期間 2025 年 10 月 1 日～2026 年 1 月 16 日                                       | 毎月第 2 または第 3 木曜日              |
| 間嶋 隆一 | 地質学・古生物学ゼミ | 地質学と古生物学に関する勉強と野外実習や見学の実施。   | 最初のゼミ日に日程調整します                |

### ◆ 元客員教員開講ゼミ

| 教員名   | ゼミ名                                 | 活動内容   | 開催予定日                                |
|-------|-------------------------------------|--|--------------------------------------|
| 植村 博恭 | グローバル時代の社会と経済政策                     | 本ゼミナールは、グローバル時代の社会と経済政策のあり方について学びます。特に、様々な身近な問題を毎日働き暮らしている生活者の視点で考えていきたいと思います。日本企業における働き方の改革、男女平等社会の実現、退職後の安心できる暮らし、個人資産の有効な管理と運用などを取り上げつつ、私たちひとりひとりの生活を支えてくれる経済政策のあり方はどのようなものか、勉強していきます。特に、若者、中堅世代、高齢者、女性、男性といった様々な世代の市民の観点からゼミを進めて行きたいと考えています。 | 毎月 1 回程度<br>金曜日<br>(Zoom 及び対面)       |
| 高橋 邦年 | 英語基礎ゼミナール<br>※現在、新規のゼミ生の募集は行っていません。 | 毎回 2.5 時間（休憩 10 分）の活動を行う。平易な英語教科書を選び、必要に応じて講師が内容について説明・解説をし、それを受けた学生が演習を行う。進度はあらかじめ定めず、無理なく進める。  | 基本的に<br>毎月第 2 土曜日<br>あるいは<br>第 3 土曜日 |

## 学生サークルからのお知らせ

※サークルの活動内容や加入等に関するお問い合わせは、下記の各サークルの連絡先にお問い合わせください。  
神奈川学習センターではお答えすることができません。

### ■ 神奈川放友会

#### ◆ 1985 年創立

『学び、遊び、助け合い、人生を楽しむ』をスローガンに、現在 120 余名の会員が、積極的に活動に参加しています。

#### ◆ 2025 年度 2 学期 行事予定

12月 忘年会 中華街「福臨閣」

1月 冬季例会 会員発表「ゴシック建築」他  
3月 花見・卒業祝賀会

◆ 詳細・問い合わせ <https://kanagawa-hoyukai.jp>

### ■ 放大かながわレク・サークル

◆ サークル活動：放送大学生との「仲間作り」とウォーキング等の「健康づくり」

◆ 例会：2ヶ月に 1 回（含、映画鑑賞会）

◆ ウォーキング：2ヶ月に 1 回、「鎌倉街道」実施中。名所旧跡文化施設等も対象。

◆ その他：観劇、観光、映画、美術鑑賞等。

上記の各種活動はいずれも自由参加。

一 会員募集中（隨時申込・受付）—

◆ 問い合わせ：島田 義治 Tel 090-3907-8384  
Email bunsima829@gmail.com

### ■ 人間学研究会

人間がかかわる様々な事について、多面的視野から学習し、会員の交流と親睦を図っている現代の寺子屋です。会員 60 名（男性 34 名、女性 26 名）

◆ 月例会：卒業研究・旅行経験発表・茶話会・外部講師講演

・原則毎月第 2 土曜日 12:30

・神奈川学習センター又は大岡地区センターで実施  
・日時、発表者、テーマ、概要はポスターを掲示

◆ 会誌：せせらぎ 36 号発行

◆ 学外各地の見学、散策、観察

◆ 連絡先：片野 賢治 mt.dream@jcom.home.ne.jp

### ■ ダンスサークル（社交ダンス）

ダンスはスポーツ！人生 100 年時代に向けて健康増進、素敵な姿勢、ストレス解消に是非ご一緒に踊りましょう。コロナ前には 20 名でしたが現在は 10 名、優秀なインストラクターの元で毎回楽しくレッスンに励んでいます。

未経験者大歓迎です！先ずはお気軽に見学にお出で下さい。

◆ 神奈川学習センター第 7 講義室

◆ 毎月 2 回、原則第 2 と第 4 火曜 13:30～15:30

◆ 会費 1,500 円/月、年会費 1,000 円

◆ ダンスパーティーで踊れるレベルへ練習  
(モダン、ラテン)

◆ 連絡先 三浦 直彦 miuranaoh21@gmail.com

### ■ うえるかむ Kanagawa

私達は英語を楽しみながら学んでいるサークルです。

◆ 例会は原則、毎月第 2 ・ 第 4 水曜日。

◆ 外国人講師英会話(対面/Zoom、10:00～11:30)  
(参加費有料、初中級・上級の 2 クラスに分かれ、各 45 分)

◆ Group Study (学生同士、13:30～15:30)

入門：対面(春・秋)、Zoom(夏・冬)

初中級：対面

中級：対面(春・秋)、Zoom(夏・冬)

上級：対面(土曜日又は水曜日)

◆ スクラブルデイ：第 2 金曜日 13:30 より対面

◆ 年会費：現在は無料(通常は年 1,000 円)

◆ ウェブサイト

<https://welcome-kanagawa.jimdofree.com>

◆ 問い合わせ

金子 韶 (Email [kaneko-toyomu@outlook.jp](mailto:kaneko-toyomu@outlook.jp))

### ■ 韓国語同好会

◆ 韓国語の日常会話を習得し、韓国放送通信大学日本学科との日韓文化交流を通して日韓相互の生活、歴史、文化への学びを深めることを目的としています。

◆ 定例会：2 回/月 第 1 ・ 第 3 土曜日

講師 姜貞福(カン)先生

◆ 授業時間：9:20～10:20 初級

(基礎学習：2025 年 6 月から開設)

10:30～11:50 中級

(日常会話を学びます)

◆ 場所：神奈川学習センター又は大岡地区センター

◆ レク活動：近郊の関連地散策、日韓交流会等興味をもたれた方、是非お仲間に！

◆ 問い合わせ：サークル協議会ウェブサイト

<https://kcc-ouj.net/dantai/hangugo/index.html>

### ■ 神奈川合唱団

◆ 合唱未経験者歓迎

◆ 合唱を愛好する皆さんと一緒に音楽を通して学生生活をエンジョイするサークルです。現在 30 有名な学生が合唱を楽しんでおります。

◆ 2025 年 4 月には、国際シニア合唱祭(みなどみらい大ホール)で<喝采><秋桜>を歌いました。

◆ 指導は、発声・歌唱を清水一成先生(プロのオペラ歌手)、ピアノ伴奏を村上千絵先生のご指導で練習に励んでおります。

◆ 場所：大岡地区センター 音楽室 2 階

(神奈川学習センターの斜め前のビル)

◆ 練習日：毎月 第 2 ・ 第 4 水曜日 18:30～20:30

◆ 連絡先：[nobukishi0429@gmail.com](mailto:nobukishi0429@gmail.com)

## ■ スペイン語研究会

- ◆ 目的：スペイン語習得とスペイン語圏の歴史・文化の習得
- ◆ 活動：月 2 回(原則 第 1 ・ 第 3 水曜日)
- ◆ 会費：初級 月 1,000 円、中級 月 2,000 円
- ◆ 初級：会員講師により基礎中心  
中級：ペルーや人講師により会話中心
- ◆ その他：スペイン語圏の講演会などに参加
- ◆ 入会申込み：<https://cdek.yokohama/>
- ◆ 連絡先：会長 中田 博久

## ■ 中国語学習会

中国語でチョット挨拶ができればなあととか、前から中国文化に興味あったけどという方。ニーハオ！中国語学習会です。

中国人の先生と和気あいあい、一生懸命勉強しています。初めてでも、昔勉強した人も大歓迎です。一緒に学ぶ仲間がいるのは心強いですね。

第 2 ・ 第 4 日曜日の午前と午後、神奈川学習センターで、ぜひあなたも一緒に。

詳細は、下記までお問い合わせください。

[elcondor@ra2.so-net.ne.jp](mailto:elcondor@ra2.so-net.ne.jp)：近藤または、  
[tomomama4213@docomo.ne.jp](mailto:tomomama4213@docomo.ne.jp)：細矢まで。

## ■ 歩・歩の会（地球研）

- ◆ 目的：地球科学ゼミ(有馬ゼミ)を発展的解消し、結成されたサークルです。地球科学をベースに自然を学び「人新世(Anthropocene)」における地球環境危機について考えています。
- ◆ 活動：毎月 1 回程度 活動参加の時に 500 円徴収
- ◆ 2025 年度活動計画：  
池上の蛇紋岩、両神山のチャート、高尾山の小仏層、丹那断層、佐渡島 Geo、初島巡検、箱根火山、西丹沢のガーネット採取など。
- ◆ 露頭にご興味のある方はご連絡ください。  
(代表：吉岡・中澤)
- ◆ Email [earth.hoho.kanagawa@gmail.com](mailto:earth.hoho.kanagawa@gmail.com)

## ■ 資格取得研究会

看護・福祉分野(心理や教育系も含む)のキャリアアップや進学・就職を目指す集まりです。目標の資格は、正看護師、看護学士、認定心理士など。例会は、不定期に学習センターで原則土日開催。オンライン開催併用。情報交換が中心。

- ◆ 会費：500 円(1 年間)
- ◆ ウェブサイト：<https://shikakuken.net/>
- ◆ 問い合わせ：080-5546-7913 (はこざき)

### OUJ 神奈川学習センターだより編集部

伊藤、入江、遠田、笠井、吉川、木下、菅崎、三国(以上、K-サポート機関紙編集チーム)、  
垣谷(K-サポート事務局)、小峯(学習センター事務室)

## 神奈川同窓会だより

### ■ 令和 7 年 年末特別講演会

高齢期の生き方と健康を支える心構え  
～心理的変化・社会的つながり・主体的な生活習慣～

日時：12 月 14 日(日) 13:30～15:30

場所：神奈川学習センター第 3 講義室

講師：安藤 孝敏先生

放送大学客員教授／横浜国立大学名誉教授

先生のご専門は、加齢に伴う社会生活の変化を対象とする「社会老年学」という分野です。

同窓会員のみでなく、学生・一般の方も聴講できます。直接会場にお越しください。

お問い合わせは、[info@hatoh.net](mailto:info@hatoh.net)

### 神奈川学習センター 40 年の歴史を 一緒にまとめませんか？

ボランティア募集

放送大学神奈川学習センターは、2025 年に 40 周年を迎ました。そこで私たちは、この節目に神奈川学習センター 40 年の歴史をみんなでまとめたいと考えています。

#### ◆ どんなことをするの？

- ・これまでの「神奈川学習センターだより」などの資料を整理します
- ・興味のあるテーマごとに分担して文章を書きます(執筆)
- ・できあがった原稿を読み合い、編集してまとめます

#### ◆ 活動の雰囲気

- ・2 ヶ月に 1 回くらい集まり、ワイワイ話をしながら進めます
- ・作業は無理のない範囲で分担します
- ・執筆経験がなくても大丈夫！資料整理やアイデア出しだけでも大歓迎です

#### ◆ 募集人数：10～20 人程度

学習者・卒業生・センターに関わったことのある方、どなたでも参加できます

#### ◆ 活動期間：2026 年 1 月～2028 年 3 月

40 周年のお祝いの気持ちを込めながら取り組みます

#### ◆ 成果物

冊子体にして刊行予定です。皆さんの思い出や文章が、この記念の冊子に刻まれます。私たちと一緒に、センターの歩みを形にしてみませんか？

#### ◆ 応募

活動に参加を希望される方は、①氏名、②電話番号、③メールアドレスを神奈川学習センターにメール※でご連絡ください

※宛先のメールアドレスは、神奈川学習センター ウェブサイトの「トップページ>お問い合わせ」に掲載

アドバイザー：坂井 素思名誉教授  
事務局(仮)：菅崎、垣谷

# 神奈川学習センターからのお知らせ

## 臨時閉所日について（12月～2月）

12月28日(日)～1月5日(月)、1月13日(火)、1月27日(火)、2月24日(火)は閉所となります。

※月曜・祝日は通常の閉所日となります。

※降雪等の悪天候により公共交通機関へ影響が及ぶ場合は、臨時閉所となる場合があります。

※急きょ閉所となる場合は、神奈川学習センターウェブサイト等でお知らせします。

## キャッシュレス決済の導入について

放送大学では 2025 年 10 月より、学習センターでお取り扱いしている各種手続きにおける支払いに、キャッシュレス決済を導入しました。ご理解とご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

### ■ 対象となるお支払い

証明書発行手数料、学生証再発行手数料、文献複写料(窓口決済)

面接授業・ライブ Web 授業の追加登録(授業料・事務手数料)、その他料金預かり(学研災害保険料など)

## 神奈川学習センター客員教授による オンライン講演会のご案内

神奈川学習センター客員教授を講師とするオンライン講演会を開催します。Web 会議用アプリ Zoom を利用して開催します。皆さまのご参加をお待ちしております。参加費無料！

### 地方自治の法としくみ～特別区制度と特別自治市制度を例に～

お申込み受付中！



2025年12月6日(土) 13:30～15:00

講師 嘉藤亮先生  
神奈川大学 教授



詳細、お申込みはこちら⇒

日本の枠組みを地方自治の観点から見ていきます。近年県内で議論される特別市制度を大阪の特別区制度に関する議論と併せて検討し、その根底にある問題意識を探求し、今後のあるべき枠組みについて考えていきます。

### 日本人にとって英語(教育)はどこまで必要か－主に大学教育を中心に考える－



2026年1月10日(土) 13:30～15:00

講師 小林正佳先生  
横浜国立大学名誉教授

※お申込みは、12月中旬から神奈川学習センターウェブサイトで行います。

日本の大学が英語科目を提供し、それを日本の大学生が必須で履修するという「当たり前」にあえて踏み込んでみる。英語スキルアップ授業に替わる必修講義科目「社会的背景における英語」の内容と必要性を説く。

### 高齢者の役割と生涯発達



2026年2月7日(土) 13:30～15:00

講師 安藤孝敏先生  
横浜国立大学名誉教授

※お申込みは、1月中旬から神奈川学習センターウェブサイトで行います。

現在、約 8 割の高齢者は自立して生活しており、社会の中で知恵や経験を活かして貢献しています。この講演では、現代社会における正しい高齢者像を理解し、高齢者が持つ力をより柔軟に活かすための考え方「生涯発達理論」に触れ、高齢者の可能性や社会で果たす役割について考える。

## 2026年度 第1学期 入学生募集!!

募集学生 教養学部(全科履修生・選科履修生・科目履修生)、大学院(修士選科生・修士科目生)

募集期間 第1回 11月26日(水)～2月27日(金)、第2回 2月28日(土)～3月16日(月)

ご家族やご友人で入学を検討されている方や、放送大学に興味があるという方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。大学案内パンフレット、授業科目案内、学生募集要項などをお送りします。気軽にお申し込みください。



放送大学 資料請求

検索